

支部事業報告書

支部名： 関東支部
支部長名： 青木 淳賢

1 支部活動の概要報告 (特記事項含む)

2月16日に支部総会・幹事会を開催し、2023年度事業報告・収支報告を行うとともに2024年度事業計画書・収支予算を了承。
各事業を以下のように開催。
6月29日：「くすりと健康2024講演会」を長井記念ホールにて対面とオンラインで開催。
7月22日：支部奨励賞選考委員会を開催。6名の受賞者を選考した。
7月27日：「薬剤師向け研修講演会」をオンラインにて開催。
8月5日：田辺三菱製薬㈱協力のもと小学4～6年生を対象とした「子ども実験企画」を横浜市青葉区にある田辺三菱製薬㈱横浜事業所にて対面開催。
9月14, 15日：新潟薬科大学新津キャンパスにて「関東支部大会」「若手シンポジウム」を対面開催。14日、支部幹事会も支部大会内にて対面開催した。
11月23日：「学術講演会」を長井記念ホールにて対面とオンラインで開催した。

2 支部活動の実施報告

1 支部総会等の開催				
名称	日時	場所	参加者数	特記事項
第68回 支部総会	2024/2/16	オンライン開催	参加者61名 委任状51名 計112名	理事会報告、支部長・部会長会議報告、執行部会報告、2023年度事業報告・収支計算書について、2024年度事業計画・収支予算について 「薬学のイノベーションと持続可能性」 一般演題発表 177件 (口頭：70演題、ポスター：107演題) 【シンポジウム】 ・「令和4年度改定コアカリ実施に向けての新薬学教育システムの構築」 ・「薬の入手困難な課題に向けて：現場の不足感と供給側の認識の違いについて課題を共有しどのように解決を図るべきか」 ・「新規インスリン製剤・GLP-1受容体作動薬の登場とこれからの糖尿病薬物療法」 ・「がん／生体防御／アレルギーの薬学」 ・「光・電磁波と物質の相互作用を基盤とした薬学研究動向」 ・「国民に信頼される薬剤師を育成する大学教育とは」
第68回 支部大会	2024/9/14-15	新潟薬科大学	357名	
2 会議等の開催				
名称	日時	場所	特記事項	
第1回幹事会	2024/2/16	オンライン開催	2024年度事業計画、支部大会開催校、支部奨励賞応募依頼について	
新旧 執行部会	2024/2/16	オンライン開催	新旧執行部引継、委員紹介、執行部、支部事業について	
奨励賞 選考委員会	2024/7/22	オンライン開催	応募総数15件より6名の受賞者を選考 今後の募集・選考方法について協議	
第1回 執行部会	2024/8/16	オンライン開催	理事会・支部長/部会長会議・事業報告、次年度支部実施体制・2024年度事業計画/予算書・次期役員候補者/選考委員の推薦、次年度副支部長選出について協議	
第2回 幹事会	2024/9/14	新潟薬科大学	理事会・支部長/部会長会議・執行部会・事業報告、選挙について、2025年度事業計画・予算書について	
第2回 執行部会	2025/1/31	オンライン開催	事業報告、支部大会開催校、理事会報告、支部長・部会長会議報告、2024年度事業報告書/収支決算書の提出について、今後の予算について、2025年度事業計画/予算案、2025年度各委員会活動計画、支部奨励賞募集について、広報委員会の設立について	
第3回 幹事会 (総会)	2025/2/21	オンライン開催	開催予定	

3 事業				
名称	日時	場所	参加者数	特記事項
市民講座	2024/6/29	長井記念ホール	約60名	<p>【くすりと健康2024講演会】</p> <p>1「日常の生活から知る薬剤師の役割と地域包括ケア」小原 道子（帝京平成大学薬学部）</p> <p>2「『よい睡眠』を考える ― 睡眠健診の実現にむけて ―」南 陽一（東京大学大学院医学系研究科システムズ薬理学）</p> <p>【高齢者の薬物治療最前線】</p> <p>1「在宅での高齢者薬物治療の現状と薬剤師への期待」高瀬 義昌（医療法人社団 至高会 たかせクリニック 理事長）</p> <p>2「高齢者における糖尿病薬物治療の最前線」早船 美保子（東京都健康長寿医療センター薬剤科 係長）</p> <p>3「認知症薬物治療の最前線」文 鐘玉（慶應義塾大学病院 精神・神経科 特任准教授）</p> <p>4「高齢者における感染管理のポイント」高山 和郎（東京大学医学部附属病院薬剤部 主任）</p> <p>【夏休み子供実験教室】</p> <p>「今日から君もおくすり研究者！」</p> <p>研究所見学と研究者の指導のもと各自実験を行った。</p> <p>【難病ならびに加齢性疾患の理解と治療をめざして】</p> <p>・「DEAD-box RNAヘリカーゼDdx20による中枢神経系の発生およびオリゴデンドロサイトの分化・恒常性維持機構」備前 典久（新潟大学 医学部）</p> <p>・「TDP-43分子病態から紐解く筋萎縮性側索硬化症（ALS）」小出 眞悟（新潟大学 脳研究所）</p> <p>・「がん悪液質におけるサルコペニアの分子機構」長谷川 拓也（新潟薬科大学 薬学部）</p> <p>・「サルコペニアに対する治療薬候補の探索研究」榎木 裕紀（慶應義塾大学 薬学部）</p> <p>・「生体試料の迅速かつ高感度な定量分析法の開発に向けて ～MALDI機構における光物理化学過程の解明～」城田 起郎（新潟薬科大学 薬学</p>
薬剤師向け研修講演会	2024/7/27	オンライン開催	104名	
子ども実験企画	2024/8/5	田辺三菱製薬株式会社横浜事業所	20組（親子）	
若手シンポジウム	2024/9/14	新潟薬科大学（支部大会併催）	約80名	<p>【プロアクティブな医薬品リスク管理システム：現状と将来への展望】</p> <p>1. Pharmacovigilance plan（E2E）/RMPのはじまり</p> <p>・「ICH E2E当時の内外の状況」黒川 達夫（日本バイオンミラー協議会）</p> <p>・「ファーマコビジュランス・古今東西」野村 香織（福島県立医科大学）</p> <p>・「日本における市販後安全対策について」野村 由美子（厚生労働省医薬局 医薬安全対策課）</p> <p>2. プロアクティブな医薬品リスク管理の実際</p> <p>・「緊急承認下でのゾコーバ錠の市販後安全監視活動」能登原 正一（塩野義製薬株式会社 安全管理部）</p> <p>・「医療現場におけるプロアクティブな医薬品リスク管理の意義～周産期領域の適切な薬物治療の実現に向けて～」小原 拓（東北大学 東北メディカル・メガバンク機構）</p> <p>・「製薬企業における医師の役割～くすりの価値最大化をめざして～」芹生 卓（日本製薬医学会Medical Safety部会）</p> <p>・「病院薬剤師におけるファーマコビジュランス～医療現場での収集・評価～」渡部 大介（国立がん研究センター中央病院 薬剤部）</p>
学術講演会	2024/11/23	長井記念ホール	約100名	
4 若手のための取組				
<p>・支部奨励賞については引き続き、HPや幹事等を通じ各分野からの積極的な応募を呼びかける。</p> <p>・薬学会本部からレベルの高い研究成果を持つ若手研究者に「日本薬学会奨励賞」に積極的に応募して欲しいとご意見をいただいている。過年度支部奨励賞受賞者などにはさらに上を目指していただくべく、本人や研究グループ主宰者などに呼びかける。</p> <p>・支部奨励賞では薬剤師等の研究を褒賞する「臨床薬学」を別枠として設けている。本年度もご応募いただいたが、支部奨励賞選考基準に合致しないケースもあり、受賞には至らなかった。別途、若手・中堅を対象とする「医療・臨床薬学支部表彰」のような制度の必要性について、支部執行部会などでの議論を継続する。</p> <p>・支部大会では優秀賞を口頭・ポスター発表とも選考・表彰している。若手の研究意欲を高める取り組みとして、学生をはじめ参加者の評価が高い。薬学会の入会促進や基礎・臨床薬学分野に関する啓蒙の意義が深く、今後も継続する。</p>				

5 奨励表彰(名称)	受賞者名	演題・対象研究・副賞
支部奨励賞（6名）	伊藤 元気 (明治薬科大学)	「新奇前駆体の創出を基盤とする実用的アライン発生法の開発」
	辻 耕平 (東京医科歯科大学 生体材料工学研究所)	「二価型阻害剤戦略に基づくがん関連キナーゼを標的とした中分子創薬研究」
	加藤 紘一 (湘南医療大学 薬学 部)	「アスパラギン残基の脱アミド化と水晶体タンパク質γSクリスタリンの凝集」
	佐々木 由香 (昭和大学 薬学部)	「プロスタグランジン合成酵素の発がんへの関与の解析」
	植田 圭祐 (千葉大学大学院薬学 研究院)	「NMRを活用した分子レベルでの物性評価に基づく製剤品質評価基盤の確立」
	孫 雨晨 (国立医薬品食品衛生 研究所)	「医薬品の安全性評価に資する重篤副作用バイオマーカー及び新規モダリティ医薬品分析法の開発」
第68回支部大会		
優秀口頭発表賞（7名）	松田 大史 (慶応大院理工)	「Notch阻害剤四環性フロインドリンの合成と作用機序解明研究」
	池川 馨 (東京薬大院薬)	「生体適合を指向した新規光酸素化剤-D-ペプチド架橋体によるマイオスタチン不活化」
	溝口 湧真 (東京理大院薬)	「TRPM2チャネルに着目した宇宙放射線防護剤の開発」
	海老澤 歩果 (東京薬大薬)	「階層スフェロイド型ヒト不死化血液脳関門モデルを用いた脳血管における炎症反応の再現」
	小林 千夏 (星薬大)	「散逸粒子動力学法を用いた吸湿による固体分散体の相分離現象の予測」
	藤本 泰輝 (千葉大学)	「PEG修飾がdoxorubicin封入リポソームの薬物封入効率及び形態変化に及ぼす影響」
優秀ポスター発表賞（9名）	佐藤 圭恭 (東京薬大院薬)	「植物由来フェノール酸の肝取り込みトランスポーターの同定」
	前田 裕輝 (昭和薬大院)	「5位に電子求引性基を有するα-ピロンとα,β-不飽和ヒドラゾンとの逆電子要請型Diels-Alder反応の基質一般性の調査」
	河野 航周 (東京理大院薬)	「金属β-ラクタマーゼの新規阻害剤の設計、合成、および活性の評価」
	鐘司 彩芽 (東京理大院薬)	「新規Menkes病治療薬の開発」
	和田 きょう花 (東邦大薬)	「イメグリミンの新規多成分結晶の探索とその物性改善」
	南出 恵 (東京理大院薬)	「光線過敏症を誘発するUV吸収剤のHP-β-CD包接条件下での生体タンパク質構造変化の検討」
	芦澤 大輝 (芝浦工大院理工)	「細胞内GTP量を制御する酵素によるがん細胞の生存への影響」
	難波 美早 (星薬大)	「骨芽細胞における活性型ビタミンD3とp57Kip2の役割」
	佐藤 秀崇 (芝浦工大院理工)	「側鎖末端にアルキル鎖を伸長した新規ビタミンK誘導体の合成と神経分化誘導活性の検討」
	林 絵礼奈 (明治薬大)	「小児に適用する経皮吸収型製剤の開発」
6 会員数増強のための取組		
・若手奨励の項目に示した「医療・臨床薬学」に関する表彰は、学生時代に日本薬学会に入会したものの、卒業後薬剤師として働くうちに、薬学会から退会してしまうことを抑制し、会員数の確保を図る活動の一つである。 ・大学薬学部、薬科系大学の若手の教員の中には、分野によっては日本薬学会会員でないケースが散見される。幹事などを通じ日本薬学会や支部の活動を紹介、入会を奨励する。 ・薬剤師や子どもを含む一般市民を対象とした研修・啓蒙活動は継続し、幅広く薬学会の活動を理解していただくことにより、薬剤師会員の確保ならびに将来的な会員増強を図る。		
7 その他の事業		